

令和5年度 第2回長野市文化芸術振興審議会 会議録（概要）

日 時 令和5年11月20日（月） 午後2時から午後3時30分まで

場 所 長野市役所第二庁舎10階 会議室201

出席者 委 員：齊藤会長、北原委員、黒坂委員、小山委員、霜田委員、竹腰委員、多田井委員、保坂委員、柳澤委員、山本委員、渡邊委員

長野市：事務局（文化スポーツ振興部文化芸術課）鈴木部長、柴田課長、千野補佐、前田補佐、五明補佐、鶴亀主事
教育委員会事務局文化財課 宿野係長

資 料

資料1 第二次長野市文化芸術振興計画

資料2-1 第二次長野市文化芸術振興計画 事業計画 令和5年度版

資料2-2 第二次長野市文化芸術振興計画 事業実績・事業計画 令和5年度版

資料3-1 令和5年度 文化芸術振興事業の概要

資料3-2 豊かな文化に支えられた「文化力あふれるまち 長野市」

1 開会

2 委嘱書の交付

3 長野市文化スポーツ振興部長あいさつ

4 委員・事務局自己紹介

5 役員の選任について

会長（1名） 職務代理（1名）

6 会長・職務代理あいさつ

7 議事

(1) 第二次長野市文化芸術振興計画について

(2) 第二次長野市文化芸術振興計画 事業計画
実施状況及び事業計画について

(3) 今年度の文化芸術振興事業の概要について

(4) その他

(事務局)

〈議事(1)(2)(3)について説明〉

(委員)

篠ノ井にあった市民会館は閉館してから随分時間が経った。篠ノ井地区は人口が増えてきており、文化施設として旧市民会館と同規模の施設の建設計画は長野市にあるのか。

(事務局)

ご指摘の通り、篠ノ井地区は人口が増えている。現在は旧市民会館の跡地に篠ノ井交流センターが建設されており、他に長野市に文化施設の建設計画はない。篠ノ井交流センターにも大きな部屋があり、芸術館で行っている「お届け芸術館」という事業で「NAGANO12」という芸術館が立ち上げた吹奏楽団の訪問コンサートを交流センターで行った。そのような場で市民の方々に文化芸術に触れていただく機会を提供している。

(委員)

篠ノ井交流センターは誰が施設の管理運営を行っているのか。

(事務局)

篠ノ井交流センターは教育委員会で管理し、事業を計画している。篠ノ井地区住民自治協議会が指定管理者となっている。文化芸術課で所管する施設は松代文化ホール、東部文化ホール、芸術館となる。

(委員)

多岐にわたっての説明を受け、1年間活発に市内で文化芸術活動が行われていることが分かった。芸術館が出来たばかりの頃に行われる行事はクラシックが多く、一般市民が近づくにくかった。立派な施設ではあるが、更に外に出て行う活動が多くなれば、より多くの市民の目に触れる機会が増えるのではないかな。施設に出向いての活動や市民の皆様に理解いただけるよう、いろいろな場所でいろいろな種類の発表を考えて欲しい。芸術館で行われる催事についてはチラシを置くだけでなく、新聞に掲載することでより多くの市民の方々に知ってもらえるのではないかな。また、担当する課が違うと思うが、公民館活動の中での文化芸術と市の関係での接点、結びつきを大事にしていけばよりよいのではないかな。

(事務局)

芸術館は当初、クラシック中心の鑑賞事業が多かったが、市民の方からの声をいただく中で、多くの方が楽しめるよう、様々なジャンルをやっていこうというコンセプトになってきている。現在ではクラシックだけでなくポップス系も増えている。資料2-2の1ペー

ジにあるとおり、クラシックも多いが、上條頌さんの「Special Live」や小野リサさんの「ボサノヴァ・ナイト」、「僕たちとシティ・ポップ」などいろいろなジャンルを実施するようになっている。芸術館では鑑賞事業に加え、市民参加型事業や普及啓発事業にも力を入れている。その中で市民の皆さんが参加できるシニア演劇アカデミーやブラスフェスティバルといったものにも力を入れている。新聞には年に数回折り込みでチラシを入れている。また、信濃毎日新聞にも記事として取り上げていただいている。公民館の活動の部分については教育委員会とも協力しながらいろいろな事業を考えていきたい。

(委員)

予想以上にたくさんのイベントが市内で行われていることに驚いた。ダンスイベントも何度か参加しているが、自分が参加している以外にもあり、参加型が中心になっているのもすごく良い。

また、資料1の第3章、具体的な取り組みに記載がある長野市の一大文化芸術イベント「NAGANO 文化芸術フェスティバル」の開催予定はあるのか。

(事務局)

具体的にはまだ決まっていないが、検討していきたい。

(委員)

1団体のみだと小さいが、多くの団体が集まって出来ることを期待している。紙媒体のチラシはすごく良い。ママ友との交流の場は結構多く、その場での情報交換は重要である。子育て世代にも情報を共有するのであれば、ママ友が集まる場での話題性が出るようなものが良いと思う。

(委員)

長野市の事業では風景画展、文化芸術祭に参加している。どこの団体も抱えている課題だが、高齢化により文化芸術の中でも絵画、美術中心に若い方が段々少なくなっている。昔は美術の先生も展覧会に出品していた。市民のアンケートでも文化芸術に触れる割合が少ない。これからどのように向き合っていけばいいのか、今後良い考えがあれば教えていただきたい。

(委員)

学校としても、今までも小中学校では連合音楽会などを芸術館で実施してきた。部活動では、2月に開催するハートフルコンサートでは市に大きなバックアップをいただいている。小中学生も含め、文化芸術活動をサポートしていただいて大変ありがたい。また、教育会でも夏季大学で今年は「演劇のゆうべ」という形で、アクトスペースにおいて演劇の

公演もさせていただいている。一緒に子どもたちのために文化芸術の発展、振興に関わることができていると思っている。

今、中学校で課題となっているのが部活動の地域移行である。中学生の部活動がスポーツ活動だけでなく文化活動も学校から少しずつ地域に移行していく。つまり、地域で受け皿を作らなければならない。どちらかといえばスポーツも課題はあるが、文化芸術も若い子供たちとのつながりをどのようにしていくのかは大きな課題である。一緒に良い方向に向かっていけるよう検討していければよい。

(委員)

市の方で主催のコンサートとか含めていろいろ計画はするが、なかなか誘客がなされてこない。どうしたら市民の皆さんにしっかりと周知できるのか、興味を持っていただき会場に足をお運びいただけるのが一番の課題である。

私は第5回伝統芸能こどもフェスティバルに関わっている。子どもたちは一生懸命練習を頑張り、親御さんも一生懸命サポートしてもらっている。しかし、見に来る人は関係者の家族しかいない。学校を通して募集のチラシをお配りしているが、参加しない家庭の誘客がなされていない。また、先生方も学校外の事業を見に行く余裕がない。どのようにしたらよいかを皆さんと考えていく必要がある。いつも関係者だけの100人程度のお客さんで終わってしまっている。

このままでは長野市の文化は成長していかない。文化水準が低い都市はだめだといわれている。また、最近は新聞を取る世帯も少なく、広報ながのが届いても中身を確認しない方々も多い。スマホやSNSで発信することは若い世代の方は出来ると思うが、その他の世代には困難である。難しいとは思いますが、宣伝方法を検討する部署があっても良いのではないかと思う。

(委員)

広報の手段はいろいろあるが、PRの方法にさらに一工夫欲しいと思っている。私たちもそうだが、市として何かやれることはないのかと感じている。私たちが行う文化芸術祭はなかなか団体を募集しても集まらない状態である。今は文化芸術協議会に加盟しているのは20数団体である。長野市には他にもたくさんの団体があり、もっと多くの団体に参加いただければと感じている。PRが足りないのかと我々も考えるが、市でも考えて欲しい。松本市では大きな団体があり、関連して様々な事業を行うと団体が集まり、観客も多く参加する人も多い。文化芸術祭も舞台での演技、絵画、書道だけでなくより幅の広い文化芸術祭が出来ればと思っている。

(委員)

中学校、高校の演劇部は演劇祭に参加する団体が増えてきている。演劇が盛んになってい

と感じるが、一般団体については長野市内で団体が少ないこと、小劇団が多いことから参加するにあたり費用が課題になってしまう。小劇団はアクトスペースでの開催を希望する団体が多いが、アクトスペースを会場として利用すると市民演劇祭の予算が不足してしまう。そのため、今は勤労者女性会館しなのきを会場として使用している。観客が劇団関係の友達、保護者に限られてしまうため宣伝方法は検討した方が良いと感じる。

(委員)

野外彫刻ながのミュージアムは長野市の特色ある事業であり、QRコードを用いて情報発信するなど情報提供も充実してきている。今、県立美術館では作品の会話型鑑賞に取り組んでいるが、そのような会話型鑑賞形式との組み合わせも良いのではないか。今年開催された「わが街ながのゆかりの作家展」は芸術館の展示サロンを使っているが、この展示会は信州新町美術館が企画したものなのか。

(事務局)

今年実施した「わが街ながのゆかりの作家展」は信州新町美術館とのコラボ事業である。展示サロンで展示を行い、終了後に信州新町美術館で展示を行った。

(委員)

信州新町美術館は立派な美術館だが、市内中心部からは距離があるため、市のサテライト的な位置づけにならざるを得ない。芸術館の展示サロンは小ぶりなので、展示だけでなく、例えばワークショップや市民参加型、作家を滞在させるなど、展示の回数を増やすのではなく色々充実させるのも良いのではないか。

8 その他

9 閉会